



2023年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年7月11日

上場会社名 株式会社コシダカホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 2157 URL <http://www.koshidakaholdings.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 腰高 博
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 土井 義人 (TEL) 03-6403-5710
 四半期報告書提出予定日 2023年7月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年8月期第3四半期の連結業績(2022年9月1日~2023年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第3四半期	39,981	47.9	5,955	356.4	6,143	46.4	6,843	175.5
2022年8月期第3四半期	27,026	60.7	1,304	—	4,194	—	2,483	—

(注) 包括利益 2023年8月期第3四半期 6,783百万円(194.5%) 2022年8月期第3四半期 2,303百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期第3四半期	83.94	76.96
2022年8月期第3四半期	30.46	29.97

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第3四半期	55,731	25,219	45.2
2022年8月期	47,273	19,508	41.2

(参考) 自己資本 2023年8月期第3四半期 25,210百万円 2022年8月期 19,500百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	—	4.00	—	4.00	8.00
2023年8月期	—	5.00	—	—	—
2023年8月期(予想)	—	—	—	7.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2023年8月期配当金の内訳 普通配当:10円00銭、33周年記念配当:2円00銭

詳細につきましては、本日公表しました「2023年8月期(第54期)配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

3. 2023年8月期の連結業績予想(2022年9月1日~2023年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	53,830	41.7	7,570	243.2	7,700	44.4	7,470	105.0	91.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社(社名) 一、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年8月期3Q	82,300,000株	2022年8月期	82,300,000株
② 期末自己株式数	2023年8月期3Q	767,376株	2022年8月期	767,296株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年8月期3Q	81,532,668株	2022年8月期3Q	81,532,704株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信【添付資料】P3「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	11
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ウクライナ戦争の長期化及びそれに起因するエネルギー・食料品の供給不足からくる物価の上昇が継続する中、国内における物価上昇に拍車をかけていた円安については日米金融当局の物価情勢を踏まえた金融政策の変更見極めから小康状態となっております。消費行動に大きく影響を与えてきた新型コロナ感染症については、当四半期においては5類への移行を含め、消費行動の平常化が一段と進み、年初来見られているリベンジ消費の顕在化がより一層明確になってまいりました。

各セグメントの業績は次のとおりであります。

[カラオケ]

主力のカラオケ事業では、新型コロナ感染症の拡大第8波を受けた出控え等により11月下旬から最盛期の12月にかけて伸び悩みを見せたものの、1月以降は既存店においてコロナ前を上回る推移となり、5月には客数にて既存店ベースにてコロナ前を上回る水準まで回復いたしました。

コロナ禍中にも行ってきた積極出店は、当第3四半期連結累計期間も継続し、41店舗（うちカラオケまねきねこ41店舗）を開設しました。

また、2019年9月にスタートした中期経営ビジョン「エンタメをインフラに」の実現に向け、「PG」「ミラPon!」などカラオケ以外のエンターテインメントの提供、コンテンツコラボの積極的展開、採用・教育体制の拡充を進めた他、新規エンターテインメント及び各種業務効率化に向けたDX施策の開発・導入準備を進め、新たなPERアクティビティとしての「メタカラ」を一部店舗にて導入いたしました。

また、海外においても、東南アジアでの新規出店を再開し、マレーシアに4店舗、タイに2店舗をオープンいたしました。

当第3四半期連結累計期間末のカラオケセグメントの国内店舗数は、前連結会計年度末比31店舗増加し613店舗、海外店舗数は同6店舗増の4か国17店舗（韓国4店舗、マレーシア10店舗、タイ2店舗、インドネシア1店舗）となりました。

以上の結果、カラオケセグメントの売上高は382億34百万円（前年同期比48.7%増）、セグメント利益は67億57百万円（同265.4%増）となりました。

[温浴]

カラオケセグメント同様、新型コロナ感染症拡大第8波の影響を受けた後、年初以降客足は戻りつつあるものの、コロナ前の水準には到達しておりません。また、水道光熱費の高騰が利益を圧迫いたしました。

以上の結果、温浴セグメントの売上高は7億88百万円（前年同期比18.9%増）、セグメント利益は19百万円（同74百万円改善、黒字化）となりました。

[不動産管理]

主要物件である「アクエル前橋」、「フルーレ花咲ビル」とも期初よりほぼ満床にて推移いたしました。また、店舗用不動産を取得する一方、当第3四半期連結会計期間において自社物件「スポーツ名古屋」を譲渡し、固定資産売却益43億33百万円を計上いたしました。

以上の結果、不動産管理セグメントの売上高は11億31百万円（前年同期比38.9%増）、セグメント利益は2億3百万円（96.5%増）となりました。

以上により、当社グループ（当社及び連結子会社）の当第3四半期連結累計期間の売上高は399億81百万円（前年同期比47.9%増）、営業利益59億55百万円（同356.4%増）、経常利益61億43百万円（同46.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は68億43百万円（同175.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ20億87百万円増加し119億98百万円(同比21.1%増)となりました。これは主に、現金及び預金が12億64百万円、流動資産のその他が3億38百万円、それぞれ増加したことなどによるものです。

有形固定資産は50億88百万円増加し、321億90百万円(同比18.8%増)となりました。これは主に、土地が24億56百万円、建物及び構築物が21億42百万円、それぞれ増加したことなどによるものです。

無形固定資産は97百万円増加し5億36百万円(同比22.2%増)となりました。

投資その他の資産は11億84百万円増加し、110億5百万円(同比12.1%増)となりました。これは主に、敷金及び保証金が11億56百万円、長期前払費用が5億98百万円、長期貸付金が4億12百万円、それぞれ増加した一方、繰延税金資産が9億24百万円減少したことなどによるものです。

固定資産の総額は、63億71百万円増加し437億33百万円(同比17.1%増)となりました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ84億58百万円増加し、557億31百万円(前連結会計年度末比17.9%増)となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ29億25百万円増加し、125億68百万円(同比30.3%増)となりました。これは主に、未払法人税等が15億11百万円、その他流動負債が2億7百万円、預り金が3億41百万円、未払金が8億32百万円、それぞれ増加したことなどによるものです。

固定負債は1億77百万円減少し、179億43百万円(同比1.0%減)となりました。これは主に、資産除去債務が6億96百万円増加した一方で、長期借入金が8億54百万円減少したことなどによるものです。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、27億48百万円増加し、305億12百万円(同比9.9%増)となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ57億10百万円増加し、252億19百万円(同比29.3%増)となりました。これは主に、利益剰余金が57億70百万円増加したことなどによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

ウクライナ戦争の長期化、それに伴うエネルギー・食料品等の供給不足からくる価格高騰、インフレ対策としての金融引き締めによる世界的な景気抑制傾向など不安定要素は継続する様相ですが、ここ3年ほど消費行動に大きな影響を与えてきた、数次にわたる新型コロナウイルス感染症の拡大や、それに伴う行動制限を伴う政策は一巡し、水際対策の緩和によるインバウンド需要の復調、さらに5月には感染法上の分類が季節性インフルエンザ等と同じ5類に引き下げられるなど、ウィズ・コロナ、ポスト・コロナフェーズに入りつつあります。コロナ禍中に、政策により、あるいは自発的に抑制され、蓄積されていた消費エネルギーが解放される、所謂「リベンジ消費」がいよいよ本格化してきております。

期初予想の段階で、新型コロナウイルス感染症の収束傾向、リベンジ消費の顕在化を想定しておりましたので、2023年8月期通期の連結業績につきましては、第2四半期決算短信での予想を維持し、売上高538億30百万円(前連結会計年度比41.7%増)、営業利益75億70百万円(同243.2%増)、経常利益77億円(同44.4%増)、親会社株主に帰属する当期純利益74億70百万円(同105.0%増)を見込んでおります。

なお、当社では従来より中期経営ビジョン「エンタメをインフラに」(Entertainment Infrastructure Plan)を掲げ、①店舗網の拡充とカラオケルーム数の拡大、②各種エンターテインメントの提供、③人財の採用と育成の3点を重点課題と位置づけ、①高度人財の積極的な採用と永続的な成長を維持しうる組織体制づくり、②PER(Private Entertainment Room)を拡充するための、DXソリューションを活用しリアル・デジタルを融合させた、“場所・空間の制約を超えたエンタメ体験価値”の創造による、既存のカラオケにとらわれない新たな顧客体験の創出、③エンタ

メと健康増進（ウェルネス）を両立させた、「ウェルテインメント」追求型の新業態開発、の3点を重要施策と位置付け、企業価値向上に向けて各種施策を推進しておりますが、当期におきましても各種業務効率化施策の他、新たなPERアクティビティとしての「メタカラ」の導入など、具体的なDX施策の導入を進めております。

また、諸施策実現の源泉たる人財の確保・育成を一層強化するため、給与水準の引き上げ（2024年8月期、2025年8月期の2年間で全社平均25%の年収アップ）を含む人事制度改革を決定し、2024年8月期より導入いたします。

さらに、当社のカラオケ事業が33周年を迎えることができたことを記念いたしまして、株主の皆様の日頃のご支援に感謝を表し、2023年8月期配当金において1株あたり2円の記念配当を実施（2023年11月下旬開催予定の定時株主総会に付議）することといたしました。この結果、2023年8月期の1株あたりの配当金は、普通配当と合わせて12円となる予定です。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,977,443	8,241,854
受取手形及び売掛金	525,866	792,145
商品	23,707	164,670
原材料及び貯蔵品	240,144	302,366
その他	2,161,669	2,500,156
貸倒引当金	△17,677	△2,555
流動資産合計	9,911,154	11,998,637
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	20,405,196	22,547,867
車両運搬具及び工具器具備品（純額）	2,196,998	2,668,543
土地	4,490,814	6,947,705
建設仮勘定	9,010	26,387
有形固定資産合計	27,102,019	32,190,504
無形固定資産		
のれん	4,915	2,075
ソフトウェア	223,418	238,407
その他	210,914	296,442
無形固定資産合計	439,248	536,925
投資その他の資産		
投資有価証券	141,677	197,481
関係会社株式	10,284	5,423
長期貸付金	1,397,800	1,810,175
長期前払費用	44,866	643,255
敷金及び保証金	6,045,882	7,202,737
繰延税金資産	2,563,537	1,639,429
その他	182,386	151,610
貸倒引当金	△565,660	△644,401
投資その他の資産合計	9,820,774	11,005,713
固定資産合計	37,362,042	43,733,143
資産合計	47,273,196	55,731,780

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	443,200	547,999
1年内返済予定の長期借入金	2,188,243	2,004,240
未払金	1,744,506	2,576,853
未払費用	1,377,403	1,497,200
未払法人税等	736,756	2,248,472
賞与引当金	229,570	221,521
預り金	56,297	397,477
その他	2,867,573	3,074,876
流動負債合計	9,643,551	12,568,641
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	4,000,000	4,000,000
長期借入金	8,744,700	7,890,020
繰延税金負債	233,336	270,352
資産除去債務	4,225,294	4,921,471
その他	917,666	862,069
固定負債合計	18,120,998	17,943,913
負債合計	27,764,549	30,512,554
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,070,257	2,070,257
資本剰余金	3,302,786	3,302,786
利益剰余金	14,423,589	20,193,771
自己株式	△105,662	△105,741
株主資本合計	19,690,970	25,461,073
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	24,189	34,155
為替換算調整勘定	△215,134	△284,625
その他の包括利益累計額合計	△190,945	△250,470
新株予約権	8,622	8,622
純資産合計	19,508,647	25,219,225
負債純資産合計	47,273,196	55,731,780

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年5月31日)
売上高	27,026,327	39,981,281
売上原価	22,875,177	30,004,932
売上総利益	4,151,149	9,976,348
販売費及び一般管理費	2,846,253	4,020,742
営業利益	1,304,895	5,955,606
営業外収益		
受取利息及び配当金	13,157	31,016
為替差益	57,459	221,764
補助金収入	2,915,513	—
その他	75,383	71,610
営業外収益合計	3,061,514	324,391
営業外費用		
支払利息	40,872	16,475
貸倒引当金繰入額	105,336	92,223
その他	25,332	28,255
営業外費用合計	171,541	136,954
経常利益	4,194,869	6,143,043
特別利益		
固定資産売却益	84,224	4,333,327
特別利益合計	84,224	4,333,327
特別損失		
固定資産除却損	25,990	52,188
減損損失	75,674	131,364
投資有価証券評価損	104,205	8,023
特別損失合計	205,870	191,575
税金等調整前四半期純利益	4,073,222	10,284,795
法人税、住民税及び事業税	779,599	2,484,597
法人税等調整額	809,804	956,725
法人税等合計	1,589,403	3,441,323
四半期純利益	2,483,819	6,843,472
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,483,819	6,843,472

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)
四半期純利益	2,483,819	6,843,472
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,722	9,966
為替換算調整勘定	△176,533	△69,490
その他の包括利益合計	△180,255	△59,524
四半期包括利益	2,303,563	6,783,947
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,303,563	6,783,947

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	カラオケ	温浴	不動産管理			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	25,705,274	663,295	1,861	26,370,432	—	26,370,432
その他の収益	—	—	655,894	655,894	—	655,894
外部顧客への売上高	25,705,274	663,295	657,756	27,026,327	—	27,026,327
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	156,482	156,482	△156,482	—
計	25,705,274	663,295	814,239	27,182,810	△156,482	27,026,327
セグメント利益又は損失(△)	1,849,585	△54,420	103,568	1,898,733	△593,837	1,304,895

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△593,837千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産に係る重要な減損損失及びのれん等の重要な変動について、該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	カラオケ	温浴	不動産管理			
売上高						
顧客との契約から生じる収益	38,234,221	788,729	173,723	39,196,674	—	39,196,674
その他の収益	—	—	784,606	784,606	—	784,606
外部顧客への売上高	38,234,221	788,729	958,330	39,981,281	—	39,981,281
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	173,054	173,054	△173,054	—
計	38,234,221	788,729	1,131,385	40,154,336	△173,054	39,981,281
セグメント利益	6,757,729	19,859	203,541	6,981,130	△1,025,524	5,955,606

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,025,524千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産に係る重要な減損損失及びのれん等の重要な変動について、該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。